

2. 地域で子どもを育てる住民の意識について

(4) 学校・家庭・地域の連携による子どもの育成

【 事例7の特色 】

塩原町「地域子育て座談会」では、5日制をより有意義なものとするために、学校・家庭・地域が相互に連携を図り、各関係者が現状と課題について話し合いながら、町内6小学校ごとの各活動に生かしている。老人クラブ・社会教育委員・PTA・子ども会育成会・家庭教育オピニオンリーダー等地域から様々な立場の方が参加しており、地域で様々な活動の機会や場を提供し、大人が指導者やボランティアとして関わりながら、地域ぐるみで子どもを育てていく意識が高まってきている。

《事例7》

事業名 (市町村)	地域子育て座談会 (塩原町)
事業主体 (実施機関)	塩原町教育委員会・各小学校の共催
<p>【事業の概要及び特色】</p> <p>1. 目的</p> <p>完全学校週5日制の実施に伴い子どもたちの生活体験、自然体験や社会体験などを経験させ、個性を生かしながら自己実現を図れるよう学校・家庭・地域社会が相互に連携していくことが求められている。家庭では子どもたちに基本的な生活習慣を身に付けさせ、地域では様々な活動の機会や場を提供し指導者やボランティアとして関わりながら、地域ぐるみで子どもを育てていく意識を高めていくことが重要である。完全学校週5日制をより有意義なものとするため、学校・家庭・地域の関係者が一堂に会し現状と課題について話し合う場を設け、情報と意見の交換を行い、今後の活動に生かしていく。</p> <p>2. 概要及び特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩原町内6小学校ごとに実施する。 ・事前にアンケートによる実態調査を行う。 (小・中学生の保護者対象) ・実施場所：各小学校 ・参加者：老人クラブ・社会教育委員・子ども会育成会・青少年育成推進委員・家庭教育オピニオンリーダー・公民館長・民生児童委員・消防団・婦人会・交通指導委員・体育指導委員・PTA (小・中学校)  <p>3. 取り組みによる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完全学校週5日制に対する地域住民の意識が高まった。 ・地域住民や保護者の生の声を聞くことができ、地域の中での共通認識が高まった。 	

- ・地域によっては、地域での子育て支援につながる具体的な動きが見られた。
(老人クラブのグラウンド・ゴルフに子どもが参加)

4. 今後の課題

- ・子ども会活動充実に向けて検討する。
- ・居住地区の「地域の子どもたちは地域で育てよう」という気運を高めるために検討をする。
- ・スポーツ少年団活動の一層の充実と体育協会や体育指導委員の活動の活性化について検討する。

小学校区 地域子育て座談会（仮称）開催案

<目的>

4月から完全学校週5日制が実施され、子供たちに生活体験、社会体験や自然体験など様々な活動を経験させ、個性を生かしながら豊かな自己実現を図ることができるよう、学校・家庭・地域社会が相互に連携し、それぞれの役割を的確に果たしていくことが求められている。

家庭では、家族のふれあいを通して基本的な生活習慣を身につけ、地域では、子供たちに様々な活動の機会や場を提供し、指導者やボランティアとして積極的に子供たちと関わりながら「地域ぐるみで子供を育てていく」意識を高めていくことが重要になってきている。

この制度が本当に有意義なものとするため、学校・家庭・地域の関係者が一堂に会し、現状と課題について話し合う場を設け、情報と意見の交換を行い、今後の活動に生かしていききたい。

<主催> 教育委員会・各小学校の共催

<期 日> 一学期後半（6～7月頃）

<時 間> 夜間が好ましい

<参加者> 教員、PTA、子供会育成会、婦人会、老人会、消防団、民生委員
 青少年育成推進員、家庭教育オピニオンリーダー、体育指導員
 行政区長、公民館長、学校教育課、社会教育課、その他

<会 場> 小学校

<事務局> 教育委員会事務局 社会教育課で所管

地域の教育資源を生かす

それぞれの地域には教育・学習に役立つさまざまな施設や環境、行事、事業などがある。これらを教育資源という。

子どもたちの教育・学習には創造性の育成が求められており、それには、子どもたちに豊かな体験をさせていく必要がある。地域の教育資源の活用は必然的に子どもたちに豊かな体験をもたらすことになり、そこに地域の教育資源を活用する意義がある。

地域の教育資源の活用の実際としては、学校教育施設や社会教育施設の活用、文化財・自然などの活用、地域人材の活用などが考えられる。

